

2015年2月10日

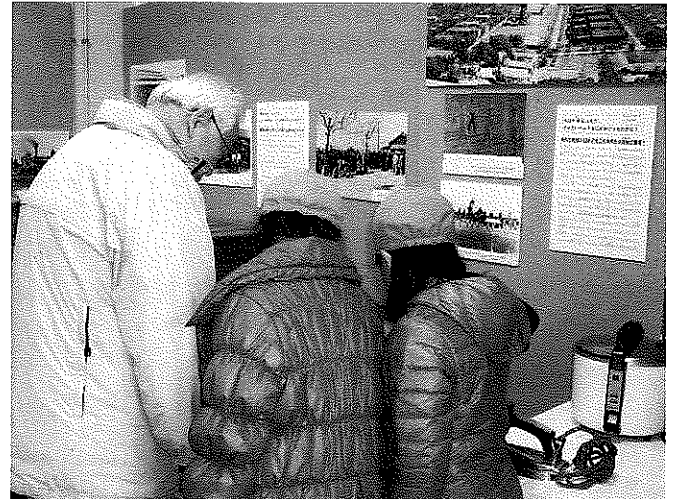
資料館通信 第67号

ふじみ野市立

上福岡歴史民俗資料館
大井郷土資料館

埼玉県ふじみ野市長宮1-2-11
埼玉県ふじみ野市大井中央2-19-5

TEL 049-261-6065
TEL 049-263-3111



大井郷土資料館と上福岡歴史民俗資料館 同時開催

ミニ展示「昔のくらしと昔の学校」

会期 平成27年1月13日(火)～3月1日(日)

小学校3年生の社会科授業では、3学期に「昔のくらし」を学習しますが、これにあわせて、大井郷土資料館と上福岡歴史民俗資料館では、人々のくらしや学校が、どう変化してきたのかを紹介するミニ展示を開催しています。市内の小学校から歩いて見学に行けるという立地や「地域館」としての特性を生かし、平成21年度から2館同時開催というかたちをとっています。

学校での団体見学の時に限り、資料館利用団体の方にご協力いただき、着物を着る、石臼をひく、お手玉などの遊び体験などをとりいれています。今年度も市内13校の小学3年生全員、どちらかの資料館には足を運んでくれることになっています。

展示は、どなたでも見学できます。懐かしいもの、めずらしいもの、いろいろありますので、ぜひご覧ください。

会 場	開館時間・休館日
上福岡歴史民俗資料館 2階展示ホールほか	午前9時～午後4時30分 毎週月曜日(祝日にあたる時も)
大井郷土資料館 1階郷土学習室・常設展示室	午前9時30分～午後4時30分 毎週月曜日(祝日にあたる時も)・特別整理のため 2月17日(火)～25日(水)は臨時休館

「造兵廠学徒動員についての体験談を語る」を開催

戦時中のふじみ野市内には、55万㎡もの広い敷地をもつ、陸軍の弾薬工場「陸軍造兵廠川越製造所(火工廠)」があり、多い時では7,000人余りの人が働いていました。戦争がひどくなってくると、国の命令により昭和19(1944)年7月からは近隣の学校から当時14歳くらいの学生が動員され、昭和20年8月15日の終戦時には1,425人(男1,039人・女386人)の学生が造兵廠で働いていました。

当時従業員だった方々もほとんどいなくなり、造兵廠内部を知る人達は、学徒動員で経験された方達の世代になってきています。そこで今回、上福岡歴史民俗資料館で開催したミニ展示「造兵廠」の関連講座として、昨年7月27日(日)に、造兵廠に学徒動員で働いた経験のある方にお越しいただき、当時の体験を語っていただきました。

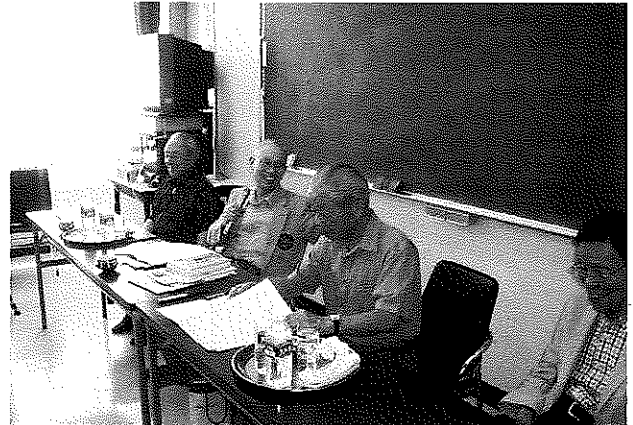
川越工業学校(現:県立川越工業高等学校)は、2年生60人が昭和20(1945)年2月から終戦まで動員されました。川越工業学校出身の細井栄五郎さんと嶋村徳樹さんは、ともに第一工場の中にあった窒化製造室に配属され、葉莖の信管につかう起爆薬を作る作業を行っていました。室内は大小のフラスコなどが並び、化学実験室のようで、硝酸銀やアセチレンガスなどつかって火薬をつくっていました。危険な薬剤も多く、発火する恐れもあるので、慎重に取り扱わなければなりません。さらに嶋村さんは後半、九州帝国大学の依託生の助手として、別棟で起爆薬の発火試験のデータを記録する作業も行ったとのことでした。

また、当時小川町から通っていた細井さんは、造兵廠からの帰りで東上線に乗っている時、霞ヶ関駅構内で機銃掃射にあい、怖い思いをされたというお話もしていただきました。

川越中学校(現:県立川越高等学校)も、1年生200人余りが昭和20年2月から終戦まで動員されました。川越中学校出身の玉之内淳さんと岡田良平さんも、第一工場に配属され、真綿でできた厚い前掛けをして、火薬や雷管などを扱う作業をしていたそうですが、何の兵器のどの部品をつくっているのかまったく知らされていませんでした。つくった製品は箱に入れ、大八車に積んで、5~6人で造兵廠川越製造所の大井倉庫(現在の大井郷土資料館・文京学院大学のあたりにあった)へ運びました。この運搬作業を仲間同士では「出張」となづけていたそうで、特に帰り道は荷物もなくなるので、大八車に乗ったりしてふざけあいながら、帰ったのがとても楽しかったそうです。工場の中ではおしゃべりはできないので、この「出張」は楽しく過ごせた貴重な時間だったのでしょう。

造兵廠での食事についても、黒パンやご飯のほかに、おかずにはスケソウダラを干したようなものもあったが、アンモニア臭が強かったことが忘れられない、というお話がありました。

参加者の中にも、本人や親が造兵廠の従業員、学徒動員の体験者だったという方がおり、可能な範囲でお話しいただいたり、アンケートをとらせていただきました。また機会を改めて、小冊子等でまとめていきたいと思っています。



学徒動員体験者のみなさん(上福岡歴史民俗資料館研修室にて)
(奥から嶋村徳樹氏、細井栄五郎氏、玉之内淳氏、岡田良平氏)

3ヶ月報償金計算票	
1年2組 19番	
氏名 玉之内淳	
交付金	26.00
内	授業料
	父兄會費
	報國團費
	其他()
手渡金	26.00
	特別会計 繰入金
合計	

学徒動員時、昭和20年
3月の報償金計算票
(玉之内淳氏寄贈)

苗間地区の稲作・湧水について

～平成26年度 大井郷土資料館 特別展「地形とくらしのつながり」から～

大井郷土資料館では、平成26年10月28日(火)から同12月14日(日)まで、特別展「地形とくらしのつながり」を開催し、多くの方々に見学していただきました。

ふじみ野市は、南西から北東方向に長く(最長7.7km)、海拔標高は、最高地点49mと最低地点6m弱となり、高低差が43mにもなります。ふじみ野市の大部分は武蔵野台地になりますが、新河岸川に近い市の東部は、荒川・利根川などが氾濫や堆積を繰り返して作られた「荒川低地」になります。

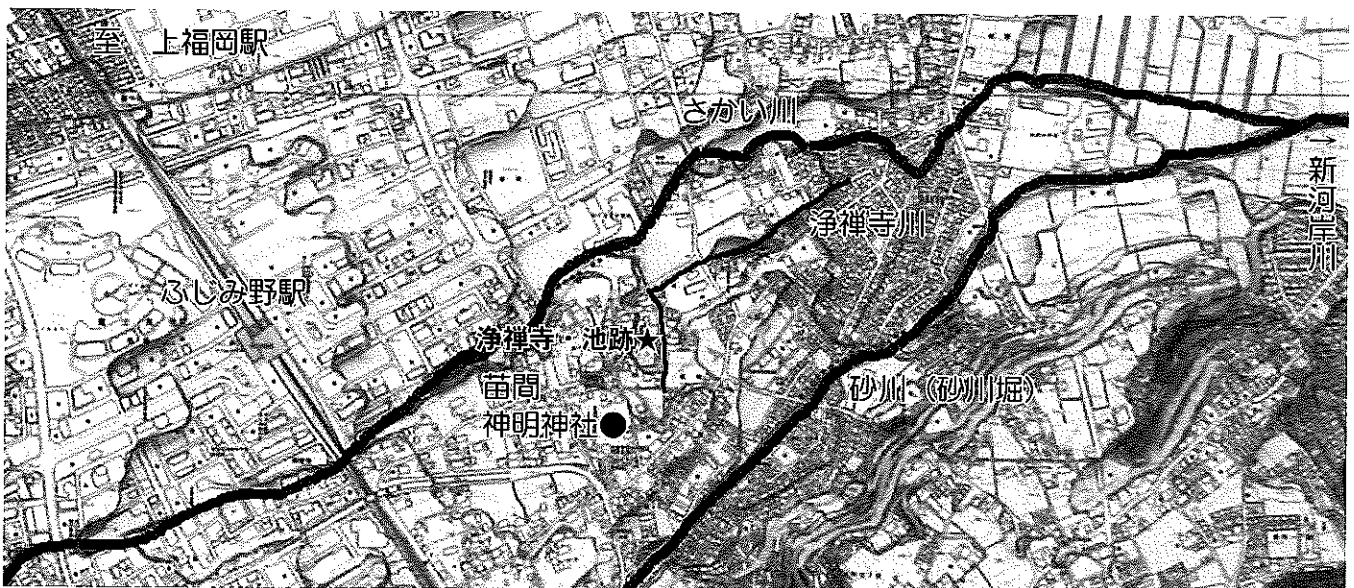
低地では、弥生時代末期以降、低地で形成された自然堤防や台地縁辺部などに生活基盤をおき、水田耕作を行っていました。市内でも新河岸川に近いところでは現在でも水田が見られますが、市の南部を流れる砂川堀沿いの苗間地区や大井地区の市沢にもかつては水田がありました。

特別展の調査として、本市文化財保護審議会委員でもある神木繁嘉さんから、小学生だった昭和12～18年のころの苗間地区の様子についてお話をうかがいました。この当時は、砂川堀の大井弁天の森より下流の方では、川に沿って田があり、苗間地区には、浄禅寺川(さかい川と砂川堀に合流し、新河岸川に流れた小河川)が流れ、その水源にもなった「浄禅寺池」がありました。用水路も何本かとおり、今とは風景がまったく違います。(江戸時代まで苗間本村に浄禅寺という寺院が存在しました。)

このあたりの田は、湧水があるためか、水はけが悪く、「フカンボ」「ドブッタ」などとよぶような腰のあたりまでつかってしまう湿田(深田)でした。このように底なし沼のような湿田では、苗を植える「田植え」ができないため、種に肥料をつけて直接田にまく「直播き」で行います。このほかにもカンジキ(カッチキ)などを履いて深く入り込まないようにするなどの工夫もしていました。神木さんも、田の中に松の太いものを埋めてあったことや、収穫時には田舟を使う様子も見たことがあるそうです。

江戸時代の村明細帳などの記録をみると、小河川・湧水・天水(雨水)などを使って農作業を行っていましたが、市域は全般的に水不足や日照りの影響で、水の確保はなかなか大変だったようです。他の資料からも江戸時代から雨乞い祈願として大山(神奈川県)や戸隠山(長野県)へのお参りも行っていたこともわかっています。

また、湧水や池、用水などがあったところには、水が涸れずに豊作につながるように祈願したのか、水の神でもある「弁才天(弁財天・弁天)」をまつ例が市内でも多くみられます。砂川堀のすぐそばにまつられている「大井弁天」はお花見や散歩コースとして訪れる人も多いところですが、苗間神明神社にも明和9(1772)年・文政9(1826)年の弁才天がまつられています。これはかつて浄禅寺池の周囲にあったものでした。浄禅寺池も水位がしだいに下がり、昭和30年代あたりには田のあったところも開発され、変わっていきました。



浄禅寺川・浄禅寺池の位置図

ふじみ野市の両資料館への資料の寄贈

平成25年11月から平成26年11月まで次の方々より、各種の文化財資料を寄贈していただきました。紙上をもって厚くお礼申し上げます。

市立上福岡歴史民俗資料館分

平成25年

- 11月15日 地球儀
市内 中里美子氏
- 11月21日 阿弥陀三尊種子板碑
市内 駒林地蔵堂
- 12月11日 前掛け
富士見市 町田三朗氏
- 12月19日 焼酎ガメ・まな板
市内 原田市男氏
- 12月25日 上福岡市市民文化懇話会資料ほか
市内 堀江和子氏

平成26年

- 1月9日 ディバイダー（造兵廠使用）ほか
市内 富田竹男氏
- 1月24日 教科書（裁縫科ほか）
市内 大島秀夫氏
- 2月3日 古文書（文政13年 中福岡村関係）
富士見市 富田治明氏
- 2月27日 古文書・古写真・提灯箱ほか
市内 玉田康雄氏
- 3月17日 教科書（昭和22～24年 中等数学）
市内 藤井暉司氏
- 4月5日 オノの刃ほか
富士見市 町田三朗氏
- 4月9日 ミシン
市内 宮木民雄氏
- 4月9日 勲章・バッジ（明治～昭和）ほか
市内 田中ミサノ氏
- 4月11日 五月人形
川越市 神田禮子氏
- 4月17日・11月12日 古銭・着物・帯ほか
市内 原田市男氏
- 4月20日 電気アイロン・古写真（大正9年 新河岸川）
新座市 吉野興一氏
- 4月23日 掛軸（尾形月耕筆）
東京都大田区 石川昌徳氏
- 4月23日 五月人形
川越市 三木勝司氏
- 5月2日 がりばん・謄写版
川越市 金子千晶氏
- 6月21日 「江川から公害をなくす会」関係資料
市内 山川寿美江氏

平成26年

- 8月5日 墨壺
さいたま市 清水八郎氏
- 8月22日 コーヒー沸かし・アルミの型・編み棒・洋裁サンプル集ほか
市内 柴田静江氏
- 10月9日 タイプライター・活字ほか
市内 内田季夫氏
- 10月31日 ワラぐつ・笠・カンジキほか
市内 山口恵三氏
- 11月30日 文書（昭和10年代の証書ほか）
市内 佐藤純子氏

市立大井郷土資料館分

平成25年

- 12月10日 電気洗濯機・竹籠・飯台ほか
市内 荻原光行氏

平成26年

- 1月10日 絵馬・御札
市内 荻原光行氏
- 1月16日 電気炬燵・タイプライターほか
市内 小山ひろみ氏
- 1月17日 貨幣
市内 安藤勝見氏
- 1月29日 貨幣
市内 馬場良男氏
- 2月19日 ゴウリ
市内 山口都美子氏
- 4月1日 小学校教科書ほか
市内 富田千佳氏
- 5月28日 レコード・玩具ほか
志木市 平井真理氏
- 6月4日・11月26日 白黒テレビ・玩具ほか
市内 佐藤みち子氏
- 6月26日 戦前の新聞
市内 安野孝義氏
- 7月19日 中学・高校の教科書ほか
市内 比嘉洋子氏
- 9月10日 和本・交通地図ほか
市内 高野義邦氏